

第1期	0歳児	I期（6ヶ月未満）
<p>発達の特徴 子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あやすと笑い声を出したり，笑い返したりする。 ・首がすわり，首を動かして追視することができるようになる。 ・腹這いで少しの間頭を持ち上げる。 ・寝返りをするようになる。 ・手に触れた物を握る。 ・手でつかんだものを何でも口に入れようとする。 ・視覚，聴覚などの発達がめざましく，泣く，笑うなど表情の変化や身体の動き，喃語などで自分の欲求を表現する。 ・授乳，睡眠，遊びのリズムが徐々に身に付いてくる。 ・眠っている時と目覚めている時がはっきりして，生活リズムが確立してくる。 ・離乳食が始まり，ドロドロ状の物を食べる。（初期食） 	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での生活と園での生活を常に連携し，無理なく園生活に慣れるようにする。 ○先生にしっかり気持ちを受け止めてもらい，安心して過ごす。 	
<p>この期に身に付けてほしいこと</p>	<p>健やかに伸び伸びと育つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して園で生活する。 ・お腹いっぱいミルクを飲み，安心して眠り，心地よい生活リズムで過ごす。 ・ミルク以外の味覚や形状に慣れていく。 ・おむつを交換してもらい，気持ちよさを感じる。 ・気温や室温に応じて，衣服を着替えさせてもらうことで気持ちよさを感じる。 ・立位で抱かれたり，腹這いで手足を十分動かして遊ぶ。
<p>身近な人と気持ちが通じ合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる先生と目を合わせて，あやしてもらったり触れ合ったりすることで満足して生活する。 ・先生の言葉掛けに対して，喃語や表情で反応しようとする。 ・心地よい時は笑ったり，微笑んだりし，不快な時は泣いて自分の欲求を伝えようとする。 	
<p>身近なものに関わり感性が育つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動く物を目で追ったり，聞こえた音に反応したり，手を伸ばして握ろうとしたりする。 ・手に触れた物を見たり，なめたりして確認する。 ・先生にいろいろな歌を歌ってもらったり，触れ合い遊びをしてもらったりして喜ぶ。 ・外気浴を通して自然に触れる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ☆室内外の温度・湿度・換気に留意し，過ごしやすい環境を整える。 ☆落ち着いた雰囲気の中で，一人一人の生活リズムに合わせた環境を整える。

<p>環境構成 (☆) と 援助 (○) の工夫</p>	<p>☆授乳コーナー、睡眠コーナーを設けるなどして、遊びや生活が保障できる安全な環境を作る。</p> <p>☆玩具は大きさ、形、色質など、発達状態に応じて選び、触ったりなめたりして感触を楽しむため、安全で清潔なものを用意する。</p> <p>☆体調や天候などを見て散歩に出掛けるなど、外気に触れる機会をできるだけ多くもつ。</p> <p>☆感染予防のため衛生面・環境面に配慮し、適切な対応を心掛ける。</p> <p>○一人一人の園児の身体発達、健康状態、家庭での生活状況について知り、保護者と連携し共通理解を図りながら個々に応じた関わりをもつ。</p> <p>○授乳やおむつ交換時などは、視線を合わせたり、ほほえみかけたり、語りかけたりするなど、応答的な関わりをする。</p> <p>○日頃の様子を十分に観察し、園児の体調の変化を見逃さないようにする。</p> <p>○睡眠中は保育室から離れることなく、うつ伏せにしないよう体位変換し、睡眠状態を観察・記録するなどして窒息死や乳幼児突然死症候群の予防をする。</p> <p>○体調や便の様子を見ながら、無理なく離乳食を開始したり進めたりしていく。</p> <p>○園児の心地よい体位で遊ばせながら、寝返りや、腹這いの機会をできるだけ多く作るようにする。</p> <p>○わらべ歌、触れ合い遊びなどでスキンシップを大切にし、先生との関係を深めるようにする。</p>
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と密に連絡を取りながら園児の健康状態を把握し、安定した生活リズムで過ごせるようにする。 ・寝返りやハイハイの準備期であるので、動きやすい服装を準備してもらおう。 ・子どもの日頃の様子を細やかに共有し、成長の喜びを共に感じ合う。 ・親子の触れ合いが園児の心の安心、安定につながることを伝え、家庭でもスキンシップを大切にしてもらおう。 ・離乳食で初めて口にする食材は家で試してもらい、アレルギーの有無を確認しながら進める。 ・保護者とコミュニケーションを取りながら育児不安を受け止めていく。 ・乳幼児突然死症候群やゆさぶり症候群について正しい知識を知らせ、注意を促す。

第2期		0歳児	Ⅱ期（6ヶ月から9ヶ月）
発達の特徴 子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 舌でつぶせる固さの離乳食を食べる。 いろいろな味や舌触りに慣れ、もぐもぐして飲み込む。(中期食・2回食) 仰向けからうつ伏せ、うつ伏せから仰向けになることができるようになる。(寝返りの完成) ハイハイをするようになる。 お座りが安定し、座った状態で玩具を持って遊ぶ。 物をつかみ持ち換えることができる。 喃語を盛んに発する。 身近な大人に自ら近づき、関わりを求める。 特定な人(身近な人)との愛着が深まり、人見知りや後追いをする。 警戒心・甘えなどの様々な感情が出てきて、嫌な時には強く泣き、身近な人に甘える。 	
ねらい		<p>○一人一人の生活リズムや健康状態に合わせて、機嫌よく過ごせるようにする。</p> <p>○様々な欲求(食べる・飲む・眠る・遊ぶ)や甘えたい気持ちが十分に満たされ、安心して過ごす。</p>	
この期に身に付けてほしいこと	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> 寝返り・ハイハイ・お座りなどそれぞれの状態にあった活動を十分に楽しむ。 いろいろな食材や舌触りの物に慣れ、離乳食を喜んで食べる。 先生に手や顔、身体を清潔にしてもらい、きれいになる心地よさを感じる。 一人一人のリズムで、安心して眠る。 	
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> 信頼できる先生との触れ合いの中で満足して生活する。 優しく声を掛けられながら、オムツを取り替えてもらい心地よさを感じる。 親しい人への愛着心が育ち、触れ合いを通して喃語を発することを楽しむ。 	
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな形、大きさ、感触の玩具に触れて遊ぶ。 音の出る玩具を持って振ったり、たたいたり、音を出して楽しむ。 簡単な歌や手遊び、わらべうたなどの触れ合い遊びを十分楽しむ。 戸外へ散歩に行くことを楽しむ。 	
		<p>☆室内外の温度や湿度に留意し、園児の健康状態に合わせて衣服の調節をする。</p> <p>☆思い切り身体を動かして遊べるよう、安全で活動しやすい環境を作る。</p> <p>☆玩具への関心が広がり、自分から玩具に向かっていこうとする意欲的な行動が満た</p>	

<p>環境構成 (☆) と 援助 (○) の工夫</p>	<p>されるような環境を作っていく。</p> <p>☆身体・衣服・身の回りにある物を、常に清潔な状態にしておく。</p> <p>☆必要に応じて沐浴やシャワー、水分補給を行うようにする。</p> <p>☆授乳や離乳は、一人一人の園児の健康状態や食欲に応じて行うとともに、咀嚼や嚥下など個々の発達状態を適切に促すことができるように、調理員と連携を取りながら食品や調理形態などに十分配慮をしていく。</p> <p>○一人一人の園児の心身の発育や発達の状態を的確に把握しておく。</p> <p>○一人一人の園児の生理的欲求を十分に満たし、先生の愛情豊かな受容により気持ちのよい生活ができるようにする。</p> <p>○健康状態を把握するために、登園後と降園前に検温する。</p> <p>○人見知り、甘え、不安など、抱っこやスキンシップを通して十分受け止め、安心できるようにする。</p> <p>○優しく語りかけたり発語や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。</p>
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寝返りやずり這いなどの動きが活発になるとともに変化の多い時期なので、園児の小さな変化も保護者に伝え、成長の喜びを共感し合うことができるようにする。 ・離乳食を進める大切な時期なので、連絡を密にし無理のない内容で進めることができるように、食品や調理形態などを具体的に話し合う。 ・歯が生え始める時期なので、口の中を清潔にすることに心掛けてもらう。 ・家庭と密に連絡を取りながら、食欲、睡眠、排泄などの園児の心身の状態を共有する。 ・人見知りは親子の愛着関係や信頼関係があるために生じるものであることを知らせる。 ・園児の喜びに共感したり、思いを汲み取って言葉に換えたりすることの大切さを伝えていく。

第3期		0歳児	Ⅲ期（9ヶ月から1歳3ヶ月）
発達の特徴 子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・歯茎でつぶせる固さの物を食べることができ、手に持って食べたり、保育者の持つスプーンに手を添えたり、食べたい物を指さしたりする。（後期食・3回食） ・表情がはっきりしてきて、身近な人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうとする。 ・自分の名前を呼ばれると振り向く。 ・指さしや喃語で意思を伝えようとする意欲があらわれる。 ・親指を使ってつかむようになる。 ・膝と手の平をついて体を上げて四つん這いができるようになったり、膝を伸ばして高這いをするようになったりする。 ・様々な方法で盛んに移動運動をし、探索活動が増える。 ・つかまり立ちや伝い歩きなど歩行への意欲が増し、活動が活発になる。 ・戸外に出ることを喜び、自然物に興味を示す。 	
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の発達に応じた全身運動を、十分に経験できるようにする。 ○共感的なコミュニケーションを取ってもらい、発語の意欲をもつ。 	
この期に身に付けてほしいこと	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイハイ・つかまり立ち・伝い歩きなど、様々な動きや姿勢をとって遊ぶ。 ・食事の前後は、顔や手を拭いてもらったり衣服を着脱させてもらったりし、きれいになった心地よさを感じる。 ・「もぐもぐごっくん」をしながら、おいしく食事をし、幼児食やコップに慣れる。 ・つまむ・たたく・引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 	
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で先生のすることに興味をもったり、模倣したりすることを楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や先生とのやりとりを楽しむ。 ・自分以外の友達の存在に気付く。 	
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな玩具を見付け、音を鳴らしたり、動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・歌や手遊びを喜び、手足や身体を動かしたり真似たりして遊ぶ。 ・散歩を喜び、戸外の自然を見たり触れたりして楽しむ。 ・好きな絵本を繰り返し読んでもらうことを楽しむ。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ☆誤飲や転倒、転落などの事故がないよう、安全な環境を整える。 ☆指先の発達を促し、感触を楽しめるような手作り玩具を準備する。 ☆保健的で安全な環境を作り、十分に身体を動かして遊べるようにする。 ☆心地よさや楽しさが感じられるように、先生は声の掛け方や関わり方を考慮する。 ○一人一人の園児の心身の発育や発達の状態を的確に把握する。 	

<p>環境構成 (☆) と 援助 (○) の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい雰囲気の中で喜んで食事ができるようにし、家庭と連携をとりながら離乳食を進め、次第に幼児食に移行させる。 ○園児の思いをくみ取り先生が言葉にして表現することで、それに刺激を受けて発語を促し、話すことが楽しくなるようにする。 ○探索活動を十分に味わえるように見守ったり、発達に応じた関わりを行ったりして、運動機能の発達を促す。 ○一人一人の園児がどのような玩具に興味をもっているかを把握し、一緒に遊ぶことで信頼関係を深める。 ○健康観察を適度に行い、体調の変化に丁寧に対応する。 ○一人一人の排尿間隔を把握し、おむつが汚れたら優しく言葉を掛けながら取り替えて、きれいになった心地よさを感じられるようにする。
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食の進め方は食品調査票などを利用して家庭と連絡し合い、園と家庭との一貫した取り組みにする。 ・歯や口腔内を清潔に保つための具体的な方法を知らせ、習慣化できるように働きかける。 ・ハイハイからつかまり立ち・立つ・歩くなど目覚ましい発達をする時期なので、園児の小さな変化もできるだけ保護者に伝え、成長の喜びを共感し合えるようにする。 ・母体免疫が低下して、感染症にかかりやすくなるので健康状態の連絡を取り合う。

第4期		0歳児	Ⅳ期（1歳3ヶ月から2歳）
発達的主要な特徴 子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯茎や乳歯を使って噛んで食べる。(幼児食) ・ 手づかみになることもあるが、スプーンやフォークを使ってこぼしながらも自分で食べようとする。また、コップを両手で持って、自分で飲もうとする。 ・ 友達への興味が芽生え、顔や体に触れたり、玩具の取り合いをしたりする。 ・ 先生の仲立ちにより、友達と一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ・ 一語文を話し、言葉を発することを楽しむ。 ・ 簡単な歌や音楽に合わせて、身体を揺すったり動作を真似たりする。 ・ はったり剥がしたりして遊んだり、なぐり描きしたりする。 ・ 繰り返しの言葉や仕掛けがある絵本、ペープサートなどを喜んで見る。 ・ 伝い歩きから独り歩きができるようになり、行動範囲や興味の幅が広がる。 ・ おむつをしている園児が多いが、先生に促されてトイレに行ったり、排泄した後に仕草や簡単な言葉で出たことを知らせたりすることもある。 ・ 午睡は一回になり、一定時間安定して眠れるようになる。 	
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心できる環境の中で着脱や食事をする中で、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○ 様々な遊びを通して手指の機能を伸ばす。 ○ 様々な遊びを通して友達に関心をもつ。 	
この期に身に付けてほしいこと	健やかに伸び伸びと育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積む・つまむ・転がす・剥がす・たたくなど、手や指を使って遊ぶ。 ・ 上がる、下りる、跳ぶ、押す、引っ張るなどの運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・ 促されて布団に入り、一定時間睡眠や休息をとる。 ・ おまるやトイレに興味をもち、先生に見守られて排泄しようとする。 ・ 先生の優しい言葉掛けと援助で、衣服の着脱に興味や関心をもつようになる。 	
	身近な人と気持ちが通じ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な人と微笑みを交わすことを楽しむ。 ・ 先生との関わりの中で、話し掛けてもらうことや自分から言葉を発して共感してもらうことを喜び、やりとりを楽しむ。 ・ 友達に関心をもち、側で遊ぼうとする。 	
	身近なものに関わり感性が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生に見守られながら、好きな玩具や遊具に自分から関わり十分に遊ぶ。 ・ 先生と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。 ・ いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・ 散歩に出掛け、自然に触れて遊ぶ。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を読んでもらい語感を味わったり、言葉の繰り返しを楽しんだりする。
<p>環境構成 (☆) と 援助 (○) の工夫</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆十分に体を動かして遊べるように、安全な環境を整える。 ☆個々の発達や発育状況に応じ、園児が興味をもてるような環境をつくる。 ☆できるだけ戸外での活動を多くする。 ☆園児が乳母車から降りて安全に遊べるような、散歩コースを調べておく。 ☆担任以外の先生や異年齢児と交流ができる環境を用意する。 ○歩行の発達に伴い行動範囲が広がり探索行動が活発になるので、安全面に十分注意を払う。 ○友達への関心の高まりから、悪気がなくともひっかき、かみつきにつながってしまうこともあるので、仲介しながら園児の姿を見守る。 ○自分でしようとしている時や何かに熱中している時は、温かく見守る。 ○園児の発見や驚きを見逃さずに受け止め、好奇心や興味を満たし共感できるようにする。 ○食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握し無理なく個別に対応する。 ○排泄はゆったりとした気持ちで対応し、園児が自分から便器に座ってみようと思うような話し方や接し方をする。
<p>家庭との連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食が完了し、幼児食へと移行できるように家庭と連携して進めていく。 ・食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の家庭での食事の様子をできるだけ細かく把握できるようにする。また、園での食事の様子や変化について細かく知らせるようにする。 ・友達とのトラブルが増える時期であるが、この時期の重要な発達の現れであることを伝え、友達への関心の芽生えを大人の関わりにより安定したものにしていくよう連携を図る。 ・活動が活発になり、家庭でも誤飲などの事故が発生しないように、注意すべき点などを伝えていく。